

エコアクション21
環 境 経 営 レ ポ ー ト

共同グラビヤ印刷株式会社

発行日 : 2020年6月25日

改訂日 : 2020年8月24日

(対象期間2019年4月～2020年3月)

目 次

1.組織の概要	3
1)事業者名及び代表者名	
2)所在地	
3)環境管理責任者	
4)事業の内容	
5)事業の規模	
6)EMS実施体制	4
2.認証・登録の対象範囲	4
PLAN	
DO	
CHECK	
ACTION	
PLAN	
3.環境経営方針	5
4.今年度の主要な環境経営計画の内容	6
5.今年度の環境経営目標およびそれに対する取り組み結果	7
6.取り組み結果に対する評価	8
7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	10
8.教育訓練体制についての評価	10
9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
10.代表者による全体評価と見直し・指示	11
11.次年度の活動管理について	12
12.中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)	12
13.次年度の主要な環境経営計画の内容	13

1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷達也

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者 総務部長 高坂誠一

連絡先 電話:0567-25-2356 FAX:0567-26-3013

事務局 業務部業務課係長 柴田聰

(4)事業の内容

グラビア印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

売上 12.8億円 (2019.4月～2020.3月)

従業員数 57名 (2020.4.1現在)

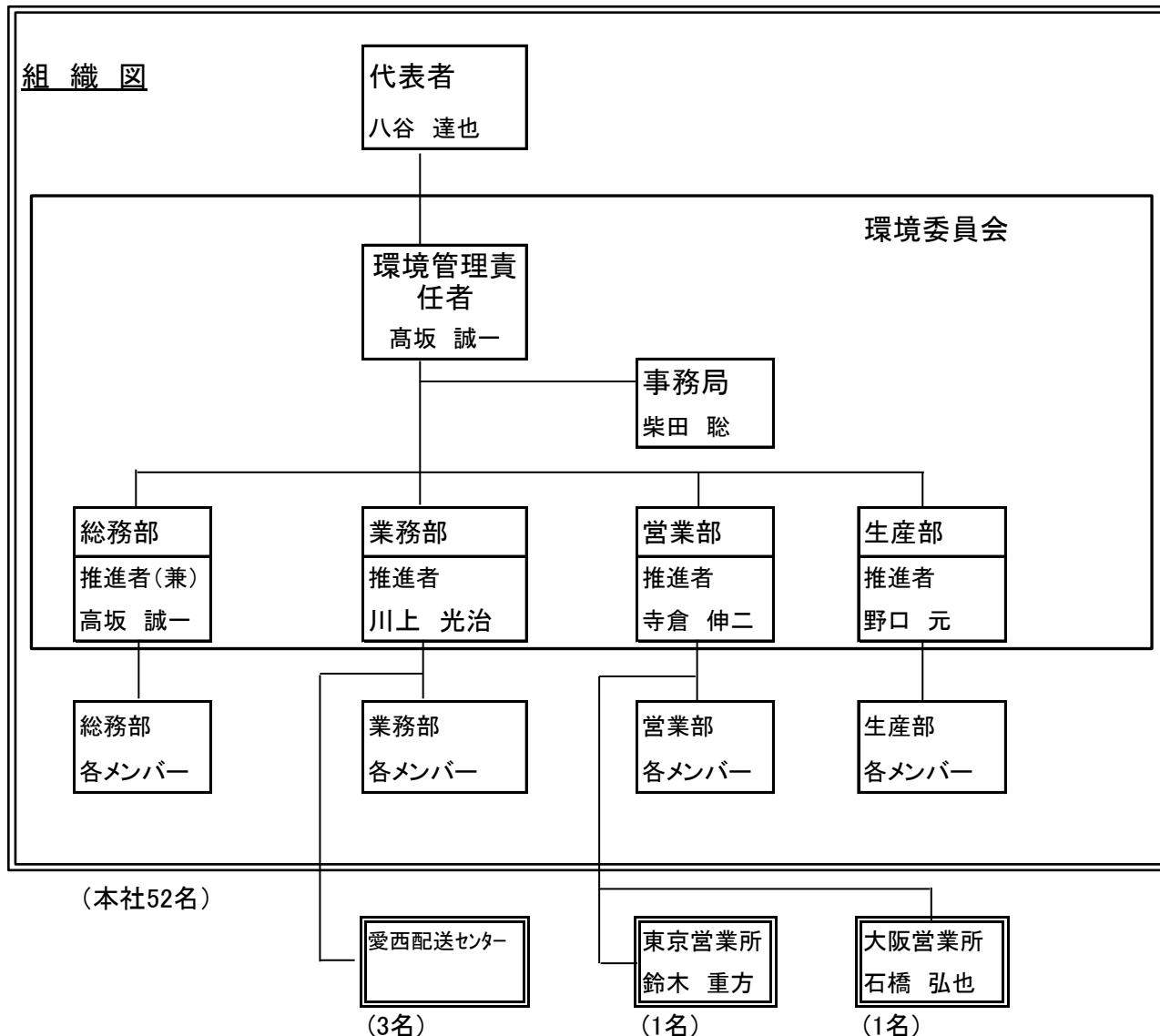
本社工場延べ床面積(駐車場含む) 2,183 平方メートル

愛西配送センター延べ床面積 1,904 平方メートル

東京営業所延べ床面積 40 平方メートル

大阪営業所延べ床面積 28 平方メートル

(6) EMS実施体制



役割・責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	社長 八谷達也	環境方針作成 環境管理責任者任命 活動に必要な各種資源用意 代表者による活動全体の評価と見直し
環境管理責任者	総務部部長 高坂誠一	EMS総責任者 システムの構築 運用状況の監査 システムの適合性・活動の実績を社長へ報告
事務局	柴田聰	全体計画立案、文書作成管理、活動の実績集計、法規等取りまとめ EMS事務管理 環境活動レポートの作成 啓発チラシの作成
環境委員会	上図の通り6名	各部門の活動計画の立案 手順書の作成
EMS推進者	各部・部、課長	教育訓練の実施、計画の実施状況確認・記録 自部門の問題点の発見
一般メンバー	上記以外の全従業員	環境方針の理解 取り組みへの積極的な参加

2.認証・登録の対象範囲

(認証・登録番号 0002785)

事業活動 : グラビア印刷及び包装資材販売

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、

東京営業所、大阪営業所

環境 経 営 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

環境に配慮した商品を通じて、お客様の満足度を向上させられるように取り組みます。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビア印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビア印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 : 2009年 3月31日

最終改定日 : 2020年 2月 1日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 達也

4 今年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み

購買電力量	対象部署	責任者
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房22°C	全部署	環境管理責任者:高坂
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
E) 生産設備可動率の向上	生産部	工場長:野口
ガソリン・軽油の使用量		
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 点検・整備の励行	全部署	環境管理責任者:高坂
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署	環境管理責任者:高坂
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部	業務部部長:川上
LPGの使用量		
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
B) 生産設備可動率の向上	生産部	工場長:野口
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部	工場長:野口
2) 廃棄物排出量の削減取組み		
一般廃棄物・事業系廃棄物		
A) コピー紙の再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 再生紙利用の推進	全部署	環境管理責任者:高坂
産業廃棄物		
A) 良品の不良化の防止	営業/業務	業務部部長:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部	工場長:野口
C) ロス・製造不良の削減	生産部	工場長:野口
D) オペレーターの技術向上	生産部	工場長:野口
3) 水使用量の削減取組み		
A) 節水ステッカの貼付	総務部	総務部部長:高坂
B) 手洗等の節水の徹底	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 漏水チェック	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部	工場長:野口
4) グリーン購入の取組み		
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪	業務部部長:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部	工場長:野口
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪	業務部部長:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み		
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部	営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部	業務部部長:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み		
A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部	営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切換え	生産部	工場長:野口
C) インクの使用量の削減	生産部	工場長:野口
D) 5S活動によるインクの整理	生産部	工場長:野口
E) インク使用量の管理	生産部	工場長:野口
F) 空調機の使用管理	全部署	環境管理責任者:高坂
G) 残インクの再利用量の増加	生産部	工場長:野口

5. 今年度の環境経営目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2016/4～2017/3)	今年度目標値 (基準年-3%)	今年度実績値 (2019/4～2020/3)	対目標 達成度	評価		
	二酸化炭素排出量 (売上1億円あたり) (kg-CO2換算)	54,250	52,623	43,814	-16.7%	○		
内 訳	電気使用量 (売上1億円あたり)(kWh) (kg-CO2換算)(※1)	24,958	24,209	21,927	-9.4%	○		
	LPG使用量 (売上1億円あたり)(kg) (kg-CO2換算)	22,790	22,106	15,935	-27.9%	○		
	ガソリン・軽油使用量 (L) (kg-CO2換算)	77,050	74,739	76,186	+1.9%	×		
	廃棄物等総排出量(kg)(※2) (売上1億円あたり)	(2015/4～2016/3)(※3)	(基準年-4%) (※3)	13,331	12,798	13,639	+6.6%	×
	水使用量(m³)			1,444	1,401	2,963	+111.5%	×
	環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	環境負荷の少ないノンソルベントラミネート工法の推進 結果:機械の稼働量(工賃ベース)は昨年比で-2.6%となり 3年ぶりの減少。過去の実績的にまだ生産量を上げる余地あり					×	
	有害化学物質使用量 削減の取り組み	インキ使用量の削減・環境負荷の低い化学物質への切替 結果:生産高比の印刷インキ使用量は昨年より-1.8%となり インキの使用量を減らすことができた。 溶剤再生機による溶剤使用量の削減については、機械の メンテナンスのため1.5か月分ほど止まり稼働回数は減ったが、 メンテナンスの成果で、1回あたりの再生量が増えたため前年並。					○	

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、エナリスの2015年の値 0.331を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべてエナリスの値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量=一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

※3 廃棄物の基準年度には(2015/4～2016/3)を使用。(2016/4～2017/3)の数値が例年に比べ突出して高かったため。それに伴い目標値の設定も基準年より-3%ではなく-4%としました。

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

電気使用量	本社・愛西配送センター・東京営業所
LPG使用量	本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)
ガソリン・軽油使用量	本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所 (ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)

水使用量	本社・愛西配送センター・東京営業所
------	-------------------

廃棄物等総排出量	本社・愛西配送センター・東京営業所
----------	-------------------

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っておりませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

6 取り組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量(売上1億円あたり)

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO₂換算値で、前年比-9%となり、目標についても-16.7%となり達成しました。

評価： 電気・LPG・化石燃料のいずれの使用量についても減らすことができました。ただし、化石燃料の使用量についてはなおも目標値に達していません。

LPG(売上1億円あたり)

前年比-16.9%で目標に対しても-27.9%と達成することができました。

2019年5月に旧工場の空調機の動力源をLPGから電力のタイプに切り替えたことにより、特に冬季(1~3月)の使用量が前年比で-25%前後になりました。空調機を使用しない季節においても前年比-10%程度で推移しており、空調機の交換の効果以外にも、印刷機の稼働の効率化の成果も出ていると考えられます。

電気(売上1億円あたり)

前年比-3.2%で目標に対しても-9.4%と達成することができました。

旧工場の空調機の動力源をLPGから電力に切り替えた影響で、LPGが減少した分だけ電力の消費量が増加することが想定されていましたが、結果は想定を覆すものとなりました。

ピークカットの試みについては、月別でみると例年突出する8月が少なく見えるものの実態は営業日数が少なかったことによるものです。1日単位のピークは例年以上の数字になってしまい、試みはうまくいきませんでした。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、前年比で-7.7%と減少したものの、目標値に対しては+1.9%となり目標達成には至りませんでした。

ガソリン単体については、-9.7%となりました。これは昨年度1台増強された営業車が今年度は減少し、元の数字になった影響があると考えられます。ただし、同じ台数であった一昨年と比較しても-3.8%となるため、活動の効果が出ているものと考えられます。

軽油については、前年比で-2.0%となりました。一昨年から昨年にかけて増加した部分が元に戻っただけで、減少には至っていません。

配送係の人手不足で、本来方面別に配車するところを、複数の方面をまたぐようなルート設定をせざるを得なかつた部分があり効率化の妨げとなっています。

2) 廃棄物等総排出量

結果： 廃棄物排出量については、前年比では -5.8%と減少しましたが、目標に対しては +6.6%となり、まだ目標達成には至りませんでした。

評価： 目標値には達していませんが、2016年度をピークにして、3期連続で減少中です。

廃棄物の種類別にみると、段ボールが 前年比で +12%と大幅に増加しました。

ダンボール箱の投入経路には、原材料フィルムの梱包材として付随して入荷されるものと、当社製品の梱包材として使用するために購入するものの2種類があります。また排出経路には、製品の梱包材として出荷されるものと、廃棄処分されるものがあります。データを調べたところ、製品の梱包材として購入した量は前年並みでした。また生産規模も前年並みであることから、原材料フィルムの入荷量および、製品の梱包材として出荷される量も前年並みと推測されます。

これらの状況から 12%の増加を説明できるデータが取り出せないため、現在当社で把握している以外の要因がないかどうか見直しが必要であると考えられます。

他の要素である金属くず・木くず・廃プラスチック・ウエス・廃油は、前年比で減少しました。金属くずについては、これまで原材料の容器として使いまわしができない形状の金属製の缶で入荷されていたものがあったのが、今年度からプラスチック製のものに切り替わったため -80%と大幅な減少となりました。

プラスチック全体では前年比 -4.7%となりましたが、その中でマテリアルリサイクル可能なプラスチックの排出量は前年比 +15%と増加しました。

サーマルリサイクルよりもマテリアルリサイクルの方が優先されるため、できる限り分別してマテリアルリサイクルできる割合を増やす取り組みをしていますが
今年度はその取り組みの成果が出ていると評価できます。

3) 水使用量

結果： 水の使用量については、前年比で +83%、目標値に対して +111%となり目標を達成することができませんでした。

評価： 12月期に、クーリングタワーに給水する蛇口1点について、定期清掃後に閉め忘れたまま定期清掃まで気づかなかったトラブルが発生しました。

定期清掃時以外には近づかない場所であるため早期発見できませんでしたが、清掃手順をリスト化し、チェックをかけながら行うことで閉め忘れを防止します。

また漏水対策として、定期的に水量計を確認することを徹底します。

4) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

ノンソルラミネートの生産高は前年比で -2.6%となり、3年ぶりに減少しました。

働き方改革による労働基準法の改正により、2ヶ月以上続く繁忙期に対して、人員の確保ができない部分が生じたため、年間での稼働時間が減少しました。その分を外注メーカーに依頼したため、内製率およびノンソルラミネート加工の比率も減少しました。

包装資材の古紙利用の取り組み

規格が廃盤となったダンボール箱については、ごみ箱や外注メーカーとの通い箱にすることでそのまま廃棄することなく転用しています。

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

生産高に対するインキの使用量については、前年比で -2%となり減少しました。

廃油の排出量も -7%となり、効率的にインキが使用されていると考えられます。

空調機の使用管理

昨年度より、空調装置を毎月1回点検し、故障によるフロンの外部流出がないか確認しております。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で -20%となりました。前年度が多くなりすぎていたため、荷物配置の見直しや、配送センターの使用時間を減らす物流のルートの見直しを行いました。前年度が高い数字だった反動もありますが、ここ5年間で一番よい数字となっています。

・東京営業所(所属 1名)

電力使用量が前年度比で +10%となり増加しました。特に1~3月の3か月間の前年比が年間増加分の80%以上にあたります。これはコロナウィルスにより営業活動が制限された影響で、事務所にいる時間が増えた結果によると推測されます。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 教育訓練体制についての評価

新人研修については、該当期間に新人が入社しなかったため実施されていません。

廃棄物の分別について、担当業者の変更を契機に再度徹底するように各部署へ指導を行いました。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。

「消防法」について、印刷用インキの保管設備の形態について、津島市の消防本部より指摘がありました件について、当期のうちに指摘に則った工事を行い完了しました。

その他の環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

空調機の更新について

前年度に空調機の更新工事が完了し、成果がどうなるか注視していたが、ガスは予想通り大幅に減少した上に代わりとして上昇するはずの電気も思ったほど増加しなかった。全体として環境負荷の削減に大きく寄与していると考えられる。

今年度の課題について

- ・ 水の使用量が、エコアクション活動を開始してから一番悪い水準となっている。解消のため抜本的な対策が必要であると考えられる。まずは、水の使用に関して、どの装置や設備でどれぐらいの量が使われているかの把握からはじめること。
- ・ 社員への教育・訓練が滞っており、また活動開始当初からいるメンバーも意識が薄れて来ている。A4紙での回覧や会議での成果の発表はあるようだが、もっと全社員にわかりやすいよう大きな紙に印刷して工場の入り口に貼り出すなど方法を工夫する必要がある。現在、情報収集など事務局が一手に行っているものを、一部でも各部署に任せることで「自分たちがやっているんだ」という意識が各メンバーに芽生えてプラスに働くのではないか。
- ・ 社員に成果を伝える際に、具体的な金額に直せばモチベーションの向上につながるのではないかと考えらるので、チラシ作成の際に成果をわかりやすくアピールすること。
- ・ 当社から生じる環境負荷の中で大部分を占めるのが製造工程であり、特に生産部に対して働きかけ、生産部を中心に活動を行うことがエコアクション活動の成果につながると考えられる。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2021年6月30日までに作成するものとします。

12. 中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)

2019年5月の空調設備の一部更新の影響が、2019年6月より2020年3月まで生じており、電力使用量が若干の増加、LPG使用量は20%程度の削減になっていることが分かりました。

ただし、まだ1年を経過しておらず、年間での正確な影響が評価できていません。

そのため、2020年度の目標も、前年までに作成済みのものをそのまま使用します。

有害化学物質使用量削減の取り組みで、溶剤再生機の稼働回数を指標としていましたが、これまで1回あたり約11kgの処理だったものがメンテナンスの結果、1回あたり約16kg処理できるようになりました。そのため、1日3回の回数目標から、1日2回の回数目標に変更します。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO ₂)	電力使用量 (※1) (kg-CO ₂ 換算)	LPG使用量 (kg-CO ₂ 換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO ₂ 換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2016年度実績値 売上:11.85億円 (売上1億円あたり)	642,865 (54,250)	295,752 (24,958)	270,063 (22,790)	77,050	1,444	(※2) 151,180 (13,331)
2017年度目標値 売上1億円あたり	53,708	24,708	22,562	76,280	1,430	13,064
2018年度目標値 売上1億円あたり	53,165	24,459	22,334	75,509	1,415	12,931
2019年度目標値 売上1億円あたり	52,623	24,209	22,106	74,739	1,401	12,798
2020年度目標値 売上1億円あたり	52,080	23,960	21,878	73,968	1,386	12,664
2021年度目標値 売上1億円あたり	51,538	23,710	21,651	73,198	1,372	12,531

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	2016年度のノンソルラミネート機の製造工賃高を維持 ボタニカルインキ(バイオマスインキ)の使用の推進
有害化学物質使用量 削減の取り組み	2021年度までに印刷生産高に対するインキ購入額の比率を29%に抑える 2020年度までに溶剤再生機の稼働実績を、営業日×2回の水準を達成

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は 0.331(エナリス:2015年)を使用

※2 2016年の廃棄物排出量の数値が平年に對し突出したものだったため、2015年の数値を使用

13. 次年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み

	対象部署	責任者
購買電力量		
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房22°C	全部署	環境管理責任者:高坂
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
E) 生産設備可動率の向上	生産部	工場長:野口
ガソリン・軽油の使用量		
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 点検・整備の励行	全部署	環境管理責任者:高坂
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署	環境管理責任者:高坂
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部	業務部部長:川上
LPGの使用量		
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
B) 生産設備可動率の向上	生産部	工場長:野口
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部	工場長:野口
2) 廃棄物排出量の削減取組み		
一般廃棄物・事業系廃棄物		
A) コピー紙の再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 再生紙利用の推進	全部署	環境管理責任者:高坂
産業廃棄物		
A) 良品の不良化の防止	営業/業務	業務部部長:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部	工場長:野口
C) ロス・製造不良の削減	生産部	工場長:野口
D) オペレーターの技術向上	生産部	工場長:野口
3) 水使用量の削減取組み		
A) 節水ステッカの貼付	総務部	総務部部長:高坂
B) 手洗等の節水の徹底	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 漏水チェック	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部	工場長:野口
4) グリーン購入の取組み		
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪	業務部部長:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部	工場長:野口
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪	業務部部長:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み		
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部	営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部	業務部部長:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み		
A) トレエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部	営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切換え	生産部	工場長:野口
C) インクの使用量の削減	生産部	工場長:野口
D) 5S活動によるインクの整理	生産部	工場長:野口
E) インク使用量の管理	生産部	工場長:野口
F) 空調機の使用管理	全部署	環境管理責任者:高坂
G) 残インクの再利用量の増加	生産部	工場長:野口